

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 6 号

令和元年 11月 7日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 岩 羽 純 一

【提案日時】

10月 30日 (水)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

提案 広田 哲 先生 (西富岡小)

田川 晋啓 先生 (山元小)

司会 呉屋 雄紀 先生 (師岡小)

宮本 尚樹 先生 (滝頭小)

記録 森下 慶 先生 (原小)

関村 研哉 先生 (初音ヶ丘小)

単元名「今に伝わる伝統行事」～横須賀の二つの虎踊り～

授業者より

- ・保存会の人々に話を聞き、本時の前に1時間授業を追加した。
- ・虎踊りを小学生は踊れないが、中学校の活動縮小にともない跡継ぎが不足するのではないかと困っている。小学生が踊れない理由は道具が重い。練習時間が遅くまでかかる。

<前時について授業者より>

- ・虎踊りの指導の中心は保存会の人々や経験者。
- ・野比中学校からストップが来て、保存会に危機感が出た。(存続問題!?)
- ・保存会の人数が高齢化により減ってきている。
- ・虎役は憧れの役であるという認識は、子どもたちの中にある。

<本時の協議内容>

☆資料について

- ・人口が減っているという事実との関連付け。→協議の結果、必要はないという結論。

☆取材について

インタビューの対象はDさんにするか、踊っている子にするか・・・

小6のさんという子は実際に踊っている。

現在、20人くらいの子どもが参加している。

保存会は虎踊りを広めたいのか、細く長く継続したいのか。どちらか？

☆本時の内容について

- ・体験会の練習の様子を見せる。
- ・なぜ小学生が虎役を務める体験会を開いたのだろう。本来は中学生のはずだが・・・
- ・前時のふりかえりで時間がかかりすぎるのではないか。（掲示物で対応）
- ・本時内で学習問題をたてるのは厳しいのではないか。

→広田先生：本時で気づかせたい。（先生が資料を提示して、子どもは調べない。）

・子供は小学生がやっていることにさほど驚かないのではないか。（大きなずれではない。）

- ・保存継承まで話を進める必要はあるのか。（児童の発言から出てくる分はよい。）
- ・虎踊りの価値を見直す時間にしてはどうか。
- ・保存したい思いをどんな資料で結びつけていけばいいのか。

☆保存会の努力

- ・踊っている様子を見せる・体験会を開く・お囃子に進級カード作成
- ・長期的展望（地の人に受け継いでいってほしい。）
- ・Dさんの思い、こだわり、時間をかけている。
- ・人を募集しているのに中村町の人しかできない。というずれがある。

◎虎踊りを通して、地域（中村町）の人々のつながりを作っていく。保っていく。

→細く長く続けていきたいという想いがある。このような保存会の方々の想いにつながる内容をゴールにする。

単元名「わたしたちの神奈川県」～寄木細工を受け継ぐ箱根町のまちづくり～

○授業者より

・副題を「伝統を受け継ぐ箱根町の寄木細工」から「寄木細工を受け継ぐ箱根町のまちづくり」へと変更した。

⇒寄木細工を追うのではなくて、まちづくりに着目させたいという思いから

- ・本時に向けて、箱根町にとっての寄木細工とは何かが悩みである。

⇒木の何%を輸入しているのか、役場ではどのようなまちづくりをしているのか、Kさんの情報はどこまで伝えたらよいのかを知りたい。

- ・子どもの実態

⇒今までに横浜を学習し、鎌倉のことも学習してからの本単元である。横浜や鎌倉を見たときにはそれぞれのまちの景色の違いを実感している。そのため、箱根のまちづ

くりにということに関してスムーズにいけるのではないかと感じている。

○検討会より

・Kさんは小田原に住んでいるが、箱根の畑宿で寄木細工を扱っている情報を出すべきか

⇒出した方がよい。第8時につながると思う。第6時までで出しておけば子どもの疑問にもつながるのではないか。地図帳を用いて距離の比較もできる。

・学習問題について

⇒箱根の寄木細工をやっていくことが難しい中でどうして続けていくのかという思いを子どもたちに捉えさせる必要がある。箱根町の活性化のために、Kさんの寄木細工やお客さんが寄木細工を買うこと、行政がポスターなどでPRをしていることなどまちが協力をしているということを子どもたちが理解できることが大切になってくる。

○視点として

Kさんを追っていく中で、寄木細工のすごさを追っていくのではなく、まちを発展させるための取り組みの一つとして寄木細工を行っているということを捉えさせることが必要である。